

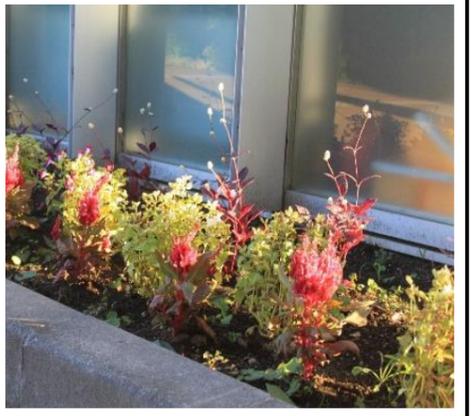


題字 井口 文章
再刊 第435号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2023

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：今期生徒会の振り返りも届け！
進路イベントの様相を紹介
二面：関東大震災から百年
防災大特集！

来年も新たな改革を 今までの活動を振り返る



生物部が整備した花壇
今年の錦城祭のテーマだった
「再起動」に合わせて千日紅など
3種類の花が植えられている

学校を彩る優しい花

校門から入って左に進んだところ、先生方の昇降口のとこに様々な種類の花が咲いているのを知っているだろうか。あの花たちは生物部が植えているものだ。生物部長の吉田凛音さん(2)によると、去年の冬から花壇に植物を植え始めたそうで、錦城祭に合わせて植え直したそうだ。「錦城祭の時に花壇を見た来



「生徒が可能性を広げられる環境づくりを頑張ってください」

11月15日水曜日に生徒会役員選挙が実施される。新生徒会発足に伴い、今期生徒会の任期が終了する。今号では、これまで錦城生をリードしてきた五人に公約の達成度や次期生徒会へのメッセージなどを聞いた。

が公約として掲げていたのは、中央委員会の内部改革と自習室の開放時間の延長。それぞれ達成率は80パーセントと65パーセントだという。特に力を入れたのは中央委員会の内部改革で、具体的には一般委員の中に一人ずつだった書記と会計という役職を、会計をなくして管理に充て、広報という役職を増やし、2年全員が役職に就けるようにしたこと、以前は自由に入ることができた一般委員だが、入る際に面接を設けることで、モチベーションが高く向上心が高い人が入れるように変えたことだ。新しく作られた管理という役職は、定例会の運営や生徒会長

の補佐を主に任せている。長く生徒会として経験を積んできた3年が定例会などを取り仕切ることで、2年の副会長が仕事を覚え今後には生かすことが設置した目的だ。高梨さんは次期生徒会に向けて「大変なことも多いと思いますが、生徒が可能性を広げられるよう、皆さんの選択肢を与えられるようによりよい環境づくりを頑張ってください」とメッセージを送った。

山田さんは話した。具体的には夏夏期間に短い靴下の導入して、自由に靴下を選べるようにするというもの。現状、サンプルまで完成させることができたのでこれから発売する準備を開始していくそうだ。

新生徒会に向けて「僕は監査委員長に就任する際本当に自分でもいのかと不安になりました。もしかしらたら新生徒会でもそのように考えたい人があるかもしれません。しかし大丈夫です、案外やってみればどうにかなるので。初心を忘れずに1年間頑張ってください」とエールを送った。

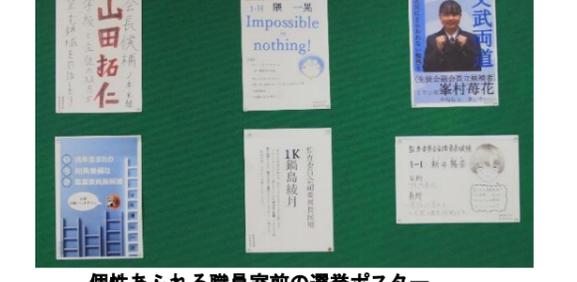
錦城祭実行委員長の田口桜子さん(2)が立候補時に掲げた公約は「みんなが楽しめる文化祭を作る」というものだった。この公約に対して達成度を聞くと、田口さんは「100%です。当日はパンフレットをほとんど配り終えることができたほど、お客さんも沢山来たので良かったです」と笑顔で答えてくれた。

また、今年から復活した飲食企画については「誰も経験がなく手探りの状態で企画を進めたので、待ち時間がとても長くなってしまったりなど様々な反省点も出てきました」と振り返る。最後に田口さんは、来期への引き継ぎとして「今年の反省や経験を活かして、来年はもっと盛り上がる文化祭を作り上げられるように頑張ってください」とメッセージを送った。

厚生労働省と警察庁が2023年3月に発表した小中高生の自殺者数は514人で、その中で高校生は354人と全体の約70パーセントを占めていた。このニュースを聞いたとき、普段深刻に考えたことがないため気づかなかったが、全国で自殺してしまう高校生はそんなになくさんなのかと、驚きと悲しみの気持ちでいっぱいになった。この夏に放送された「最高の教師 1年後、私は生徒に『された』というドラマがある。卒業式の日、自分の持つクラスの生徒に突き落とされた主人公が、1年前の始末式に戻り、自らの死の運命を変えるために生徒を変えていくという話だ。このドラマの中で、自分の居場所がないと悩む女子生徒がいた。友達から離れて行ってしまおうとひどく怯え、常に誰かに合わせている。その女子生徒を好いている男子生徒がいる。悩む彼女に向けて言った彼のセリフが「居場所なんて誰にもないよ。そこに自分が立つだけだよ。そこに立つたら誰かが寄ってきてくれるかもしれないじゃん」だ。錦城生の中にも同じように、自分の居場所を探して、悩んでいる人がいるかもしれない。だが、その居場所が見つからない、もしくは見つけたと思う居場所の相手に拒否されてしまったとき、それに悩んで自らを追い込んでしまふ必要はあるのだろうか。居場所とは「どこか」ではなく、自分が今立っている「ここ」だと思ってみてはどうか。「論語」で有名な孔子は、「徳は孤ならず必ず隣あり」という言葉を残した。徳のある者は孤立することがなく、理解し助力する人が必ず現れるという意味だが、自分なりに努力をしていれば、必ずあなたの頑張りを認めてくれる人が、あなた

様々な学部の紹介がされた。例えば、中央大学経済学部模範授業では、オリエンタルランドの経済効果の説明を例に挙げ、大学で学ぶ経済学についての説明が行われた。経済学を学ぶのにおすすめの人の特徴などを挙げながら経済学の魅力についても説明された。数学そのものは苦手で、経済や経営を学ぶのが得意な人にも、経済学を学ぶのが向いているという。また、自分自身が学びの主体となることを掲げた「中央経済のゼミ」についての紹介があり、中央大学経済学部の魅力が語られた。最後に2025年度の中央大学経済学部の入試要項や卒業後の進路についての説明がなされ、模擬授業は終了した。進路決定は人生において重要な分岐点となる。色々な学部や医学部、留学などの

生徒総会・選挙まであと2日！



個性あふれる職員室前の選挙ポスター

60回生の新しい挑戦？

来年の7月25日から27日に計画されている2泊3日の勉強合宿案について、2年生にアンケートが実施された。今回は、仮担当として合宿の計画を進めている太田剛先生に聞くと、合宿は主に自習を中心として、60回生の目標である「背伸びをする、周りを見る、分かち合う」を体現したような内容を予定しているという。太田先生はこの勉強合宿を企画したきっかけについて「60回生の代から新カリキュラムとなり、入試でもわからないことが多くなっていくと思います。そのため少しでも生徒の希望通りにできるかと教師の間で考えていた時に案の一つです」と話す。しかし、実際の実施状況についてはまだはっきりとした計画は決まっておらず、実施するかについてもアンケート

結果をしっかりと吟味してから決めるそうだ。アンケートの回答率はまだ500人中150人しか回答がないそうで、まだ吟味する段階に入っていないという。太田先生は「この取り組みは皆さんにとって勉強のきっかけ、あるいは自分を変える経験となつてほしいと考えています」と話した。(月)

生徒の可能性を切り開いていきたい

監査委員長

監査委員長を務めた加園鈴也さん(3)は公約として、代議員をクラスの枠にとらわれず、やる気のある人から選挙で選んで代議員を活躍にしようという「代議改革」を掲げていた。この公約達成については加園さんは「自分個人としては公約達成に向けて動くことはできませんでしたが、しかし代議員の方々の頑張りがあった

半年前にはほかの仕事に追われていて実現できなかったため、公約の達成度は50%と語っており、任期を終えた現在は「前回と変わらず、他にも

公約が達成できず悔しいです

皆が楽しめる文化祭達成度は100%です

むらさき草

た小中高生の自殺者数は514人で、その中で高校生は354人と全体の約70パーセントを占めていた。このニュースを聞いたとき、普段深刻に考えたことがないため気づかなかったが、全国で自殺してしまう高校生はそんなになくさんなのかと、驚きと悲しみの気持ちでいっぱいになった。この夏に放送された「最高の教師 1年後、私は生徒に『された』というドラマがある。卒業式の日、自分の持つクラスの生徒に突き落とされた主人公が、1年前の始末式に戻り、自らの死の運命を変えるために生徒を変えていくという話だ。このドラマの中で、自分の居場所がないと悩む女子生徒がいた。友達から離れて行ってしまおうとひどく怯え、常に誰かに合わせている。その女子生徒を好いている男子生徒がいる。悩む彼女に向けて言った彼のセリフが「居場所なんて誰にもないよ。そこに自分が立つだけだよ。そこに立つたら誰かが寄ってきてくれるかもしれないじゃん」だ。錦城生の中にも同じように、自分の居場所を探して、悩んでいる人がいるかもしれない。だが、その居場所が見つからない、もしくは見つけたと思う居場所の相手に拒否されてしまったとき、それに悩んで自らを追い込んでしまふ必要はあるのだろうか。居場所とは「どこか」ではなく、自分が今立っている「ここ」だと思ってみてはどうか。「論語」で有名な孔子は、「徳は孤ならず必ず隣あり」という言葉を残した。徳のある者は孤立することがなく、理解し助力する人が必ず現れるという意味だが、自分なりに努力をしていれば、必ずあなたの頑張りを認めてくれる人が、あなた

今では1つの話題に対して発言数が増えたり、話し合いが盛んになったりと最終的には代議員を活躍に活動できるようにになりました」と話す。

やることでできてしまったため達成度も50%のままで「す」とやりきれなかった悔しさを表した。また、公約内容についてのアンケートを行った際にはテスト前一周間の休みがないという環境が当たり前の前だったので、そもそも不便に感じている人が少なかったため、公約内容の実現が有用に感じられなかった、と話した。「来期の生徒会では情報共有を積極的にしたい、生徒会全体の団結力をより高めることを頑張りたいです」とメッセージを送った。

10月4日(水)5・6限、1年生は体育館で講習を受けた。話をしてくださったのは、ベネッセコーポレーションの近藤奈央さん。4月に受けたGPS(Global Proficiency Skills)テストについて説明をしてくれた。このテストは「思考力」を問うものだ。与えられた問題から必要な情報を適切に抽出、類推したりする力や、自らの主張を論理的に表現する力が求められている。講習内で思考力を測る例として

実際に使われた問題

来年度からは共通テストに情報が追加されるなど大学入試も変わってゆく。近藤先生は1年生たちに「Sだから、Aだからという評価ではなく、自分の強みが何なのかに注目してほしい」と語った。

二年生
同じく4日、2年生は大学の先生などから話を聞く「学部説明会」の講習を受けた。文

「自分の強みに注目して」進路説明会実施

1年生

10月4日(水)5・6限、1年生は体育館で講習を受けた。話をしてくださったのは、ベネッセコーポレーションの近藤奈央さん。4月に受けたGPS(Global Proficiency Skills)テストについて説明をしてくれた。このテストは「思考力」を問うものだ。与えられた問題から必要な情報を適切に抽出、類推したりする力や、自らの主張を論理的に表現する力が求められている。講習内で思考力を測る例として

実際に使われた問題

来年度からは共通テストに情報が追加されるなど大学入試も変わってゆく。近藤先生は1年生たちに「Sだから、Aだからという評価ではなく、自分の強みが何なのかに注目してほしい」と語った。

二年生
同じく4日、2年生は大学の先生などから話を聞く「学部説明会」の講習を受けた。文

